

平成27年度 会派調査研究報告書

(視察先 1箇所につき 1枚)

会 派 名	蕤誠クラブ	
出 席 者	一木 長博 ・ 西野 賢一 ・ 宮川 文憲 ・ 守屋 久 ・ 浅川 裕康 ・ 小沢 栄一 ・ 金井 洋介	
事 業 名	まちなか再生事業について	
事 業 区 分	①研究研修	②調査

1 蕤崎市での課題と研修・調査の目的

富山の自然や科学の面白さを実感するとともに、富山の自然の特徴を学ぶことができるよう3部構成の展示で自然と科学について紹介し、あわせて教育課程でも取り込めるよう、工夫を凝らし積極的な活動をされている。本市でも2014年6月の南アルプスユネスコパーク登録を契機に各種団体間で情報共有に努め、南アルプスの持つ自然の維持、活用への取り組みを進めており、今後の本市の活動の一助としたい。また、2015年のノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章さんの「研究とスーパーカミオカンデについてのロビー展 梶田隆章さんノーベル物理学賞受賞記念受賞研究紹介展」を参考事例として研修する。

2 実施概要

実 施 日 時	視 察 先	富山市科学博物館
平成28年 2月 6日 (土) 13時15分～15時30分	担 当 部 局	富山市科学博物館 学芸課
報 告 内 容	<p>1. 富山市の概要</p> <p>富山県の県庁所在地で、同県の中央部に位置する。2005年(平成17年)4月1日、旧富山市、上新川郡大沢野町、大山町、婦負郡八尾町、婦中町、山田村、細入村の7市町村による新設合併によって現在の富山市が発足した。合併により、全国の都道府県庁所在地の中では2番目に広い総面積を持つようになった(全国の市では11位)。また、富山県の29.24%の面積を占め、1つの市町村が県に占める面積の割合としては全国一である。市域は富山県域に対して南北にわたっており、日本海と南側の県境いずれにも接している。広い総面積に対し、可住地面積比率は38.2%で、市域の約6割が林野地となっている。また、市街化区域面積比率は5.8%であり、環境モデル都市の選定を受けてコンパクトシティを目指した都市計画を進めている。また、環境未来都市、国際会議観光都市、国連エネルギー効率改善都市、レジデント・シティに選定されている。市内の多くは立山黒部ジオパークに、南東部は中部山岳国立公園に指定されている。合併により、「越中富山の薬売り」で知られる富山藩の城下町として栄えた地域(「薬都」と呼ばれることも)、浄土真宗の古刹聞名寺(八尾)の門前町として発展した地域、立山信仰の登山者たちの宿場町として人々が行きかた地域など、多様な地域が包含された。地形も変化に富み、水深約3,000mの富山深海長谷から標高2,986mの水晶岳までさまざまな動植物が生息し、ホタルイカや雷鳥などが観光資源化されている。平成28年1月末現在の人口は、418,961人、世帯数72,505世帯、国から中核市の指定を受けている。</p>	

〔運営状況〕

1979年11月23日に、旧富山刑務所跡に整備された城南公園の一角に「富山市科学文化センター」として設立された。同じ敷地内には隣接して富山県立近代美術館がある。当初は博物館に市民の交流の場を兼ね備えた施設だったが、何度かリニューアルを経て、2007年7月13日の大規模な館内リニューアルに伴い、名称も「富山市科学博物館」に変更し、より博物館としての機能を充実させた。3階にはプラネタリウムを設置している。富山市科学博物館は、富山県富山市西中野町にある。おもに富山の自然の特徴をテーマにした自然科学と宇宙科学を紹介し、楽しく分かりやすく学ぶことを目的にした市立の博物館である。富山の郷土性豊かな科学博物館として、展示、普及教育、調査研究、収集保管の各事業、プラネタリウムの投影、各種出版物の発行をしている。付属の天文台では、夜間公開観測会などを実施している。郷土の自然や身近な現象から自然の仕組みを探り、科学の面白さを実感し、また、富山の自然の特徴をあらゆる角度から楽しく学ぶことができるように「とやま時間のたび」・「とやま空間のたび」・「宇宙へのたび」の3部構成で展示している。展示室ではツチクジラの骨格標本や恐竜などの大型標本をはじめとする多くの資料が展示されており、また、ノーベル物理学賞受賞に伴うロビー展「梶田隆章さんノーベル物理学賞受賞記念受賞研究紹介展」を富山市科学博物館1階に設置し、梶田隆章さんの研究とスーパーカミオカンデについて分かりやすく紹介している。また、1階から3階の3層に分かれた展示室はそれぞれのテーマに沿って分かりやすく展示されている。

1階の「とやま・時間のたび」は、富山県の地形の成り立ちとそこで育まれた自然、生物、またそこで暮らす人々との関わりを紹介。岩石や化石標本を年代別に展示している。また「ティラちゃん」というティラノサウルスのロボット(アニマトロニクス)も展示されている。昔、富山県にも生息したナウマンゾウの紹介と、骨格、生体模型が展示されている。

2階の「とやま・空間のたび」は、富山県の地形の大きな特徴である3,000m級の立山連峰や、「あいがめ」と呼ばれる水深1,000mにも及ぶ富山湾で起こる自然現象を高山から海までの5ゾーンに分け、分かりやすく解説しており、またそこに生息する生物などを紹介している。

「おもしろ実験ひろば」は、科学文化センター時代の理工展示を継承したもので、子供から大人まで自分で実験装置をさわって体験し、科学に興味をもってもらうコーナーである。「強風体験装置」・「ダイヤモンドダスト発生装置」などの装置もある。

また、「とやま・ノーベル賞受賞者コーナー」では、富山市出身の田中耕一さんや、少年時代を富山で過ごした利根川進さんのノーベル賞受賞者の研究紹介コーナーもあり、特別展示室がある。

3階の「宇宙へのたび」は、最新の宇宙の姿や隕石などの紹介。宇宙旅行のシミュレーションなどもある。また付属の富山市天文台の情報も紹介している。

プラネタリウムは、242席あり、時間ごとに複数の番組を上映している。上映時間は、約35～45分となっている。

支援事業として、対象施設は一部異なるが、年齢及び居住地の制限はなく、一緒に入館される祖父母と孫・ひ孫を対象とした「孫とおでかけ支援事業」や、高校生以下のお子さんやカップルでの入場についても毎週土曜日は博物館施設無料というような事業を掲げ集客に努めている。

〔感想〕(これらの取り組みを富山市にどう活かせるか)

地域活性化に伴う博物館として、自然の維持、活用への取り組みや支援事業等、また今後本格化する人口減少や超高齢社会に対応した持続可能なまちづくりを進めるため、公共交通機関を活性化させ、その沿線に住居・商業・業務・文化等の都市の諸機能を集積させることにより、車がなくても安心して生活ができる集約型都市構造への改編を目指している富山市は、環境モデル都市の選定を受けてコンパクトシティを目指した都市計画を進めている。また、環境未来都市、国際会議観光都市、国連エネルギー効率改善都市、レジデント・シティに選定されており、市のイメージアップや認知度の向上につながる事業を富山市シティプロモーション事業として認定し、事業費を補助している。

1. イベント等出展事業、市のイメージアップが期待できる三大都市圏等で開催されるイベントの主催・出展など。

2. 包装紙等「富山」標記事業。包装紙等に「富山」を標記する事業など。

3. 県外への情報発信事業。

本市ノーベル賞受賞者大村智名誉市民の受賞研究紹介展等や本市のイメージアップが期待できる記事を広報や情報誌・インターネット等に掲載し、ニコリ・大村美術館、白山温泉、幸福の小径等のPRなど交流人口の増加に向けて取り組んでいきたい。

感想(まとめ)・市政に活かせること

※視察先の写真等がある場合は添付のこと



Nobel Kaidou - a driving course which commemorates the Nobel Prize winners from this area

わが国のノーベル賞受賞者のうち、富山市ゆかりの田中耕一さん(化学賞)と利根川進さん(生理学・医学賞)をはじめ、飛騨市ゆかりの小島昌俊さん(物理学賞)、高山市ゆかりの白川英樹さん(化学賞)の4人の受賞者が国道41号線の沿線に關係しており、富山—高山間を「ノーベル街道」と呼んでいます。

ノーベル街道

田中耕一さん
富山生まれで高校まで富山市で学ぶ。現職は京都大学で最先端の電子顕微鏡・電子分光を研究。2002年、ノーベル化学賞。富山の中心、富山県立総合技術センターに在籍。

利根川進さん
富山生まれ。1947年〜1950年、富山県立富山高等学校で学ぶ。その後、京都大学で博士号取得。2008年、ノーベル生理学・医学賞受賞。富山県立総合技術センターに在籍。

小島昌俊さん
富山生まれ。1947年〜1950年、富山県立富山高等学校で学ぶ。その後、京都大学で博士号取得。2002年、ノーベル物理学賞受賞。富山県立総合技術センターに在籍。

白川英樹さん
富山生まれ。1947年〜1950年、富山県立富山高等学校で学ぶ。その後、京都大学で博士号取得。2002年、ノーベル化学賞受賞。富山県立総合技術センターに在籍。

ノーベル賞受賞者ゆかりの施設とその他の施設紹介

- 1 ノーベル記念センター
- 2 富山県立総合技術センター
- 3 富山県立科学博物館
- 4 富山県立総合技術センター
- 5 スーパースタリオン
- 6 道の駅スライム・パーク